

文藝に修羅無くなりぬみやこ鳥

藤田湘子

戦前戦後の食べるにもことかきながら文筆生活を送った文芸作家たち。書きたいことも書けず、リンチや投獄生活、弾圧により転向を迫られた人々。

俳句とは、人生とは、生きる目的とは、と語り合った仲間も減り、時代と共に見かけ上はわずかずつ豊かになった。しかし、人間の愛憎や八苦も変わることも無く続いている。

「芸」とは、正字の「藝」から「執」（こだわり）を省略した字形。同じ意味内容とは、とても思えない。

また「都鳥」の「みやこ」を平仮名にして、今にも白い羽を広げて飛立ちそうな柔らかさを与えている。

百合鷗少年をさし出しにゆく 飯島晴子

2005年 (h17作) 第十一句集『てんてん』 鑑賞・轍郁摩